

兵庫県における歯科口腔保健の課題

1 歯科専門職の従事状況

- (1) 歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士は人口 10 万人対で、全国平均よりも 10 ポイント低い。
- (2) 保健所設置市を除く県下 37 市町の歯科専門職の配置状況は、歯科医師は 0 名、歯科衛生士は 9 名であり、保健事業に応じて、地域活動歯科衛生士等を雇用している。

2 歯科医療施設の状況

在宅医療サービス、訪問歯科衛生指導の実施施設数は全国平均を上回っているが、1カ所あたりの訪問歯科衛生指導の実施件数が全国平均を下回っている。

3 ライフステージ別の課題

(1) 妊産婦期

○妊婦歯科健診を実施している市町は平成 25 年度で 19 市町と少なく、受診率や、受診結果等の把握が困難な状況である。

(2) 乳幼児～学齢期

○乳幼児のう蝕有病率は全国と比べて低い状態で推移しているが、圏域内格差が大きく、西播磨、丹波、但馬圏域で高くなっている。

○学齢期で「歯肉に所見あり」の割合が、中学 1～3 年で全国平均より高くなっている。

(3) 成人期～高齢期

○歯周疾患検診の実施市町は年々増加傾向にあるが、総体的に受診者数が少ない状況である。

○全国、全県ともに成人期以降の歯科疾患の実態把握が困難である。

(4) 特に配慮を要する方

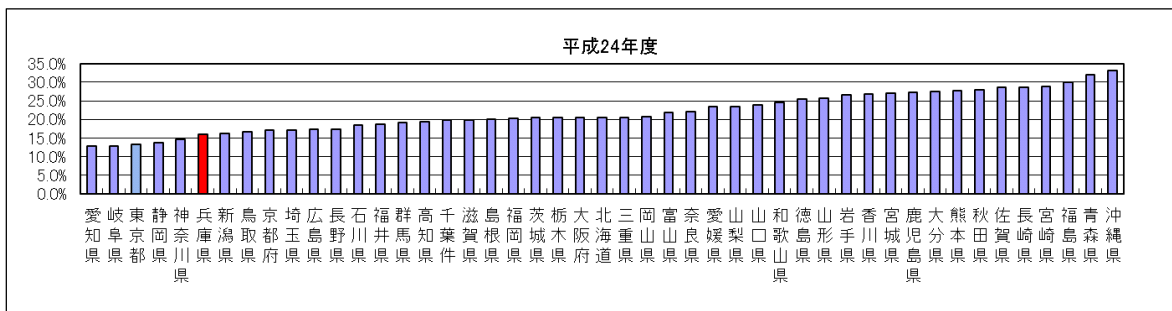
○協力歯科医師を持たない通所施設での歯科口腔保健対策の取組状況が把握できてない。

○在宅歯科診療として、訪問・往診ができる歯科診療所が少ない。

○施設等で実施する歯科健診の費用が一律でなく、明確化されていない。

【参 考】

◆都道府県別 3 歳児う蝕有病者率



◆都道府県別 12 歳児一人平均う歯数

